

町小だより

令和7年
12月22日
No. 703
御免町小学校

大切にしたい風習

校長 土田 利康

2025年も残すところ僅かとなりました。本年も当校の教育活動に御理解と御協力をいただき、心より感謝いたします。子どもたちは互いに協力し合い、多くの学びと成長を積み重ねてきました。できなかったことができるようになったときの輝く笑顔に、子どもたちの確かな成長を感じます。年末年始は、家族がゆっくりと向き合える貴重な時間です。忙しい日常の中ではなかなか伝え切れない「ありがとう」や「がんばったね」という思いを、ぜひ言葉にして届けていただければと思います。子どもたちは、大切な人からの温かな言葉や時間の積み重ねによって安心感を育み、次の挑戦へ踏み出す力を蓄えていきます。特別な御褒美でなくとも、一緒に食卓を囲む、散歩に出る、今年の出来事を語り合うなど、何気ない時間こそが、子どもたちにとって大きな心の栄養となります。各家庭での実践をお願いいたします。

さて、本日22日は冬至です。北半球では太陽の力が一番弱まった日であり、この日を境に再び力が甦ってくると考えられ、古くから太陽が生まれ変わる日と捉えられてきました。今でも冬至に係る祭りが催されている国もあります。中国や日本では、冬至を「一陽来復」と言い、この日から運が向いてくるとされています。諸説あるようですが、「一陽来復」の運を呼び込む前に、厄払いするための禊（みそぎ）として身を清めたのが柚子風呂の風習だそうです。冬が旬の柚子は香りが強く、邪気が寄らないという考えがあったそうです。理由はともかく我が家でも、縁起を担いで柚子風呂に浸かる習慣があります。御利益の有無も気になるところですが、まずはそれで心が落ち着きます。

また、冬至に「かぼちゃを食べる」という風習もよく知られています。保存がきき、栄養の豊富なかぼちゃは、昔から冬場の貴重な食材でした。「冬至にかぼちゃを食べると元気に冬を越せる」という言い伝えは、先人の生活の知恵から生まれたものです。さらに、冬至には運を呼び込む節目という意味を込め、「ん」のつく食べ物を食べると良いとされてきました。なんきん（かぼちゃ）・れんこん・にんじん・きんかんなどは、運がつく食べ物として親しまれてきました。

冬至にまつわる風習は、昔からのきまり事というだけでなく、寒さが深まる季節に家族の健康を願い、温かく過ごすための知恵がたくさん詰まっています。年末の忙しさの中でも、柚子の香りを楽しみながらお風呂に入ったり、かぼちゃ料理を囲んだりと、親子で季節の風習に触れることで、心がほぐれ、一家の団らんの時間が生まれます。ぜひ御家庭でも、冬至をはじめとする様々な年末年始の風習を楽しみながらお過ごしください。

これからは、1日ごと日が長くなります。何だか気分も明るくなりま
すね。御用納めには少し日はありますが、皆さん良いお年をお迎えください。

